

帯広市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 19年8月～24年3月)

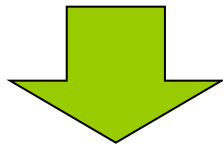
【中心市街地を巡る状況】

○帯広中心市街地は、帯広市のみならず農業が基幹産業の十勝圏(18町村)へ「まち」の魅力を提供

○市の人口増に合わせ郊外開発促進

▽中心市街地の全市に占める人口割合減少
S30:22%→H18:1.7%

○郊外型店舗の立地急増(H10～H11)
中心市街地の中核店が郊外移転(H10)



○歩行者通行量(休日)
H10:28,109人→H18:14,367人(△49%)

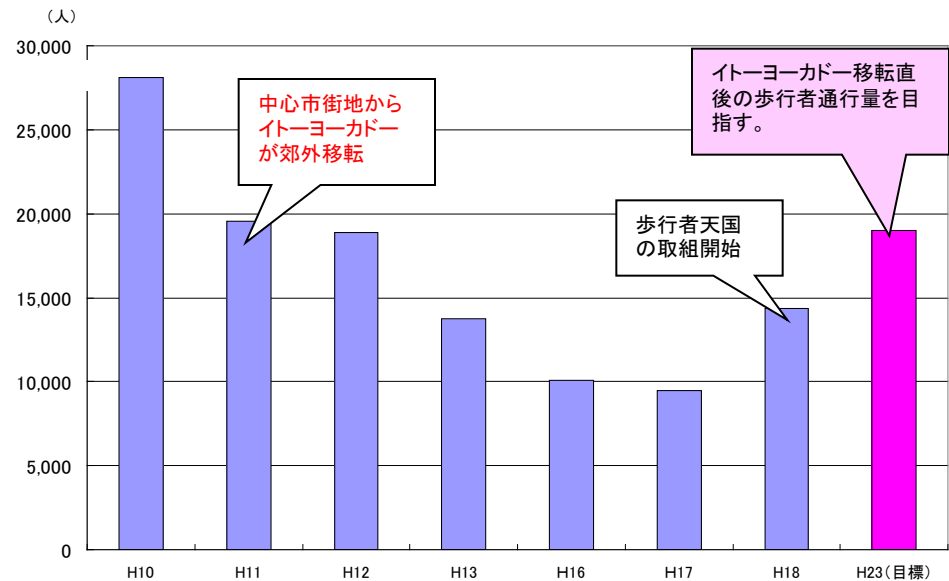
○小売商業年間販売額
H9:773億円→H14:504億円(△35%)

【目標】

目標	指標	現況値(H18)	目標値(H23)
住実ゾーンの形成	居住者数	2,892人	3,650人
買適ゾーンの形成	歩行者通行量	14,367人	19,000人
観動ゾーンの形成	活動拠点施設利用率	72.0%	76.4%

(歩行者通行量(休日)の推移と数値目標)

* 毎年1回調査(調査地点8箇所)



通年の歩行者天国を中心商店街で実施するとともに、市民主体の各種イベントを行うことにより「人とのふれあいの場」を再生し、十勝圏の中心である田園都市の核としての魅力を更に向上させる。

帯広市中心市街地活性化基本計画の事業概要

来街者の回遊促進

○ オビヒロホコテン

平成18年よりボランティアや地元商店街が共同で委員会を立ち上げ、歩行者天国を実施し、イベントやオープンカフェによるにぎわいを創出

○ 広小路アーケード改修「ひとつ屋根の下事業」

老朽化した広小路のアーケードを改修し、同時に広小路全体も歩行者天国とし、「オビヒロホコテン」と連携し賑わいづくりに取り組む。また、雪雨の際にも快適に買物ができるように地元の生鮮食料品を販売する「廉売」へアーケードを延長する。



広小路商店街



廉売

○ ウォークアンドライド事業

中心市街地内の乗り降り自由のフリーパスを安価に発行し、バス同士の乗り継ぎを自由にするにより、中心市街地の回遊性の向上を図る。

集客拠点施設整備

○ 北の屋台(第三期)募集

若手経営者のチャレンジショップを兼ねた屋台村の出店者を募集し、中心市街地への来客増と回遊性向上を図る。

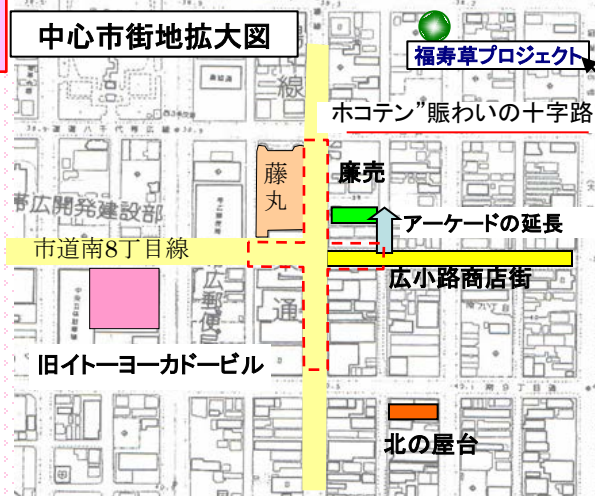


北の屋台

○ 旧イトーヨーカドービルの再生

大店立地法の特例を活用し、商業ビルの再開に向けて官民連携して取り組んでいく。

中心市街地拡大図



中心市街地: 140ha

まちなか居住の推進

○ 高齢者向け住宅建設費補助

- ・福寿草プロジェクト(高齢者下宿)
50戸の高齢単身者向けの食事付きアパートとデイサービス併設した施設を整備
- ・地元資本による高齢者向け住宅を建設
フィットネス施設を備えた50戸の高齢者住宅を整備

○ 開広団地の再開発

老朽化した流通団地の一部を再開発により、居住、商業、業務の複合施設として整備

○ まちなか居住プラットフォーム設置事業

NPO主催の、住民、行政、事業者による、まちなか居住の勉強会や情報交換の場づくりを行い、まちなか居住と老朽化した建物の更新等を目指す。

地域コミュニティの再生

○ 市民参加型イベントによる地域コミュニティ再生

- ・クリーンキャンパス21
市民による市街地の自主的な清掃活動
- ・おびひろイルミネーションプロジェクト
市民の募金によるイルミネーションの設置やイベントの実施



おびひろイルミネーション

○ 町内会の加入率向上

市民の関心の高い防災対策として町内会に自主防災組織を設置するとともに、会費を減額した準会員制度を導入する。

○ 市民ギャラリー整備事業

JR駅の高架下フロアを有効活用し市民や文化団体等の作品発表の場を設け、市民の芸術・文化の活動を支援するとともに、これまで中心市街地外で行っていたイベントを中心市街地内に移す。